

# 学校における新体カテストの効果的な活用と体育・スポーツ資質の向上へ向けての取り組み

- ☞ 子供の体育・スポーツ資質向上への第一歩として、正確な体力評価を実施
- ☞ これまでの実績を踏まえ、更なる展開を図り、いち早く“福岡方式”を確立
- ☞ 将来(中高年期)の健康づくりを見据え、学童期からの取り組みが必要

2017年  
スポーツ庁概算要求  
→ 体育・スポーツ資質向上  
→ スポーツ施設環境整備  
→ スポーツツーリズム



東京オリンピック

2020年  
その後  
国民健康づくり  
健康志向

2035年  
健康先進国  
\* 福岡市

2020年～

2011年～

2011年～現在までの  
小学校体力評価の実績



新体カテスト  
8項目

福岡市内  
小学校  
6校

朝食  
睡眠  
TV  
運動etc.

アンケート  
調査

これまでに分かったこと

◆ 生まれ月と体カテスト評価の関係\*



◆ 出生体重と体カテスト評価の関係\*\*



3500g以上(156名) 2500g未満(139名)

■ 低い ■ 普通 ■ 高い



- ✓ 体格(→個人差の大きい時期)
- ✓ 生まれ月(→学童期にとっての『1年間』のもつ“重み”)
- ✓ 出生体重(→現在の体格や体力との関係が示唆されている)

## ◎これらの要因を考慮した上でテスト結果の標準化

- ◆ 客観的なテスト結果を提示することで、児童が、今以上に前向きな姿勢で体育・運動・スポーツ活動へ取り組める環境の整備を目指します。
- ◆ 客観的な評価を踏まえて、未来へ向けての適切な課題設定に繋がります。

- データの解析結果を踏まえ、時代に即した体育のあり方を提案
- 子供の健全な成長をサポート
- これまでの指導実績を更にブラッシュアップ  
→ 遊び感覚を盛り込みながら、各自の課題に即した運動を取り入れ、運動神経の向上を図る (例; コーディネーショントレーニングの実施)

## ◎スポーツ科学部 / 運動部による体育指導を拡充



福岡市の  
全小学校の  
データ解析  
へ繋げる

→ 福岡市全体の傾向を把握

→ 分析の精度が向上



☆“福岡方式”  
の確立

\*: 伊藤早紀ら(福岡大学スポーツ科学部)の報告に基づき作成 2015

\*\* : 安方惇ら(福岡大学スポーツ科学部) Research Vol.21 No.2 JUNE2016 福岡大学研究推進部